

2023年10月22日 礼拝説教要旨

ハイデルベルク信仰問答講解説教Ⅱ 20 「聖霊を信ず」

創世記1：1～2、ヨハネ14：15～17

問53 「聖霊」について、あなたは何を信じていますか。

答 第一に、この方が御父や御子と同様に永遠の神であられる、ということ。第二に、この方はわたしにも与えられたお方であり、まことの信仰によってキリストとそのすべての恵みにわたしをあずからせ、わたしを慰め、永遠にわたしと共にいてくださる、ということ。

ここは使徒信条の「われは聖霊を信ず」この部分についての問答となります。使徒信条は三部構成でして、父なる神さま、子なる神さま、そして聖霊なる神さまと信仰を言い表しておりますが、これは同時に三位一体を表しています。問24に次のようにありました。

問24 これらの箇条はどのように分けられますか。

答 三つに分けられます。

第一に、父なる神と、わたしたちの創造について、

第二に、子なる神と、わたしたちの贖いについて、

第三に、聖霊なる神と、わたしたちの聖化についてです。

聖霊の働きを三位一体という観点から見ると、父なる神さまの「創造」、イエスさまの「贖い」そして聖霊による「聖化」は、三位一体の神さまの一貫した救いの過程と見ることができます。ここに聖霊についての第一のこと、「この方が御父や御子と同様に永遠の神であられる」ことの意味があります。この世界を始められたお方は、この世界を贖い、そしてこれを最後の完成まで責任をもって携わってくださる神さまなのです。聖霊は、御父や御子と同じ目的を持ってわたしたちの救いのために働かれます。

そこに聖霊を信じる根拠があります。先日、知人から奈良漬が送られてきました。立派な木箱に入っていて、その箱に創業三百有余年と書いてあって驚きました。もちろん後継者は替わるでしょうけれども、その味、伝統はしっかり引き継がれていくのです。そこに信頼が生まれます。例えば、一つの会社でも後継者が代わることで、その会社の方針から何から何まですべて変わってしまうことがあります。まったく別の会社のようにになってしまう。またお店が代替わりしたら味が変わってしまったということはよくあります。それは残念なことかもしれません。一貫していることが重要です。

教会もそうです。教会の信仰、伝統は一貫したものがあります。それはさらに遡れば、ペンテコステの時に生まれた最初の教会に行き着くのです。それはこの後の「聖なる公同の教会」の公同性、普遍性に関係しています。この変わらない信仰をしっかり受け継いでいるからこそ信頼できるのです。牧師によってコロコロ変わったら信用できないでしょう。牧師が自分の感覚で、自分のやりたいようにやるのが教会ではありません。それは聖霊の導きではありません。父なる神さまが始められた世界を子なる神さまが救い、やがて聖霊なる神さまが完成に導き仕上げてください。この神さまの一貫した救いを教会は宣べ伝えています。

さて、もう一つ聖霊について重要なことが教えられています。それが第二に言われていることです。「第二に、この方はわたしにも与えられたお方であり、まことの信仰によってキリストとそのすべての恵みにわたしをあずからせ、わたしを慰め、永遠にわたしと共にいてくださる、

ということです」この方、聖霊がわたしにも与えられていると言います。この根拠になっている聖書はIコリント6：19です。「知らないのですか。あなたがたの体は、神からいただいた聖霊が宿ってくださる神殿であり、あなたがたはもはや自分自身のものではないのです」今日読みましたヨハネ福音書でも「この霊があなたがたと共におり、これから、あなたがたの内にいるからである」（14：17）とあります。

ここでわたしたちが心に留めておきたいことは、聖霊はわたしたちの内側、内面に働きかけるお方であることです。内と外で何か違いがあるでしょうか。大いにあります。外側から動かすのは、自分の意思に反して、無理矢理動かすことだってあります。強いてそうさせる。何かを強いられるとわたしたちは反発します。そのように信仰を強要されるような宗教があるでしょう。信仰は決して強いられるものではありません。上から強要されることではない。むしろ、内面から沸き起こるものです。でもそれが自分自身の中から沸き起こるのではなく、自分の中に働く聖霊によって自分が突き動かされ、イエスさまを信じる信仰に導かれるのです。これを教会の言葉で「聖霊の内的証示」と言います。聖霊がわたしたちの内面にイエス・キリストを証しする。それゆえに強いられるのではなく、自発的に、喜んで神さまに従う信仰がそこに可能になります。そのように聖霊はわたしたちの中に働いて信仰を起こしてくださるのです。

わたし自身、いつも不思議に思うのですが、よくこのような自分が信仰を持つことができたということです。失敗だらけで振り返っても恥ずかしいことばかりです。胸を張って信じていますなどは到底言えない。これは謙遜でも何でもありません。近くにいる妻はよく知っている。忙しいとイライラして、夫婦喧嘩もしますし愚痴や弱音を吐くことも多い。ですから信仰が自分の中から生み出されたものではないことは明らかです。聖霊が働いてくださっているとしか言えません。

わたしたちが使用しています吉田隆先生の翻訳では「この方はわたしにも与えられたお方であり」となっています。これは原文に忠実に訳されたのだと思いますが、わたしは「こんなわたしにも与えられた」とどうしても読んでしまいます。本当にふさわしくない、こんなわたしにも聖霊は与えられている。そして絶えず励まし、助けて、救いの完成に導いてくださっている。だからこそわたしたちは信仰を続けることができるのです。これは恵みとしか言いようがありません。だからこそこれに甘えるのではなく、そのように救いにふさわしく整えられていく、聖化されていくことを感謝し喜ぶ者でありたいと思います。

天の父よ。ふさわしくないこのようなわたしにも聖霊を与えてイエスさまの救いに絶えず導いてくださいます。わたしたちを励まし、助けて、そして完成に導いてくださる幸いを感謝します。どうぞ、この聖霊の働きをわたしたちが自分の思いで妨げることがありませんように。聖霊を悲しませることがありませんように。喜んで聖霊の働きを求め、感謝して委ねるものでありますように。主の御名によって祈ります。アーメン。